

平成29年度第1回木曾岬町総合教育会議（議事録）

日 時 平成29年6月21日 午前9時30分開会

場 所 木曾岬町役場4階 防災多目的室

出席者

（構成員） 町 長 加藤 隆

教育委員会

教 育 長 山北 哲

委 員 白木 修

委 員 藤井 由弘

委 員 大橋 洋平

委 員 宮崎 佐和

（構成員以外の出席者）

総務政策課長 森 清秀

教育課長 西川 幸男

教 育 課 山下 昌司

総務政策課 中里真由美

協議事項 「『地域とともにある学校づくり』に向けて、地域の力を活用し、地域と協働して子どもの育ちを支えていく取組をさらに充実させていくためには」

午前9時30分開会

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 皆様、おはようございます。定刻となりましたので、平成29年度第1回木曾岬町総合教育会議を開催いたします。お手元の事項書に従い進行してまいりますので、よろしくお願いいたします。

私、本日の会議を進行させていただきます総務政策課の森と申します。よろしくお願いいたします。

では、初めに加藤町長よりご挨拶を申し上げます。

【加藤町長】 皆さん、おはようございます。

今年は、4月、5月と大変いい天気、暑い日が続いていたような感じですが、そろそろ

一雨欲しいなと思っているところに、久しぶりにまとまった雨となったようでございます。恵みの雨であればと思っているところでございます。

本日は、平成29年度木曾岬町総合教育会議を開催させていただきましたところ、教育委員会の皆さん方、大変忙しい中、早朝からご出席をいただきました。本当にありがとうございます。

また、教育委員の皆さん方には、日ごろから町政各般にわたってご支援、ご協力を賜り、とりわけ教育行政、教育振興、発展のために格別のご尽力をいただいておりますこと、この機会に改めて感謝を申し上げます。

教育委員会制度の改正、施行により、この総合教育会議が今年で3年目を迎えたところでございます。私ども木曾岬町は、現在、第5次総合計画の施策の推進中でありまして、加えて、地方創生人口ビジョン、総合戦略に掲げる施策について、優先度をつけながら取り組んでいるところでございます。その中でも教育分野については、重点施策の柱としており、町民憲章に掲げる次世代を担う人づくりを目指し、学力の向上、英語教育の充実などや地域とともにある学校づくりに向けて、学校や保護者、そして地域の皆様方との協働により一体となって子供たちの育ちを支える、そうした地域社会の構築に本格的に取り組む必要があると感じているところでございます。

当町では、地方創生事業の第1弾として、次代を担う子供たちが生まれ育った木曾岬町に魅力を感じ、誇りと愛着を持ってくれるように、さまざまなまちづくりや、イベント行事に参加をしてもらい、地域の人々との触れ合いや協働によって次世代を担う人材育成につなげていくという新たな挑戦を始めているところでございます。その1つが、三重大学との協働研究事業による地域人材育成プログラムであり、中学生の参加と活躍が始まってきたところでございます。これまでにない視点から政策展開を図ったことは、今後の人材育成に向けた取り組みの可能性をさらに広げられたのではないかと考えているところでございます。

今後とも、教育委員会と連携をとりながら、町民一体となり子供たちの育ちを支えていくまちづくり、地域づくりに取り組んでいきたいと考えているところでございます。そうした中で、本日の会議では、地域と協働して子供たちの育ちを支えていくためには、具体的にどんな手だてや施策を展開していったらよいか等々につきまして、一步深めた協議、議論を重ねていきたいと考えております。人材育成は、今後のまちづくりを考えていく上で欠かせない大きな要素でございます。ぜひとも皆さん方の忌憚のないご意見をいただき

ながら、教育の一層の充実を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上、簡単でございますけれども、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

引き続き、山北教育長よりご挨拶申し上げます。

【山北教育長】 おはようございます。

本日は、このような機会をつくっていただきましてありがとうございます。

今日は、園長先生、校長先生、そして青少年育成町民会議の会長さんもお出席いただいておりますので、直接、現場あるいは町民会議の子供の育成の状況のお尋ねがあれば、お答えいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

先ほど町長さんが申しましたように、本日のテーマに沿いまして、若干これまでの教育委員会で決定しました経緯をお話しさせていただき、共通理解のもとで協議に入っていただけだと思いますので、少しお時間をいただき、園・学校運営のあり方が変遷してきたことの説明を申し上げたいと思います。

木曾岬町は平成27年までは、地域に開かれた学校づくりということを目指して園・学校運営をお願いしてきました。具体的に申しますと、園や学校の教育目標について、PTAの総会、校長通信、学校や園のさまざまな通信等で保護者に発信させていただきました。このことは、町広報にも、地域の皆さんにもお知らせしてきました。そのような情報を発信しながら、意見や支援をいただき学校運営をしてきたのがこれまでの取り組みでした。

平成28年度からは、その運営をさらに一步前に進め、地域とともにある学校づくりを目指して学校運営をやっていただくことを目的に、学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールの実施に踏み切ってきました。

この学校運営協議会制度の趣旨、従来とどう違うかということ、学校や園の教育目標を保護者や地域の皆様に発信し、その目標を共有していただく。そして、その目標を達成するために園や学校は、基本方針を説明し、それを承認いただく。今までは、承認という行為がなく、一方的に話をさせていただいたが、地域とともにある学校づくりというものは、そのような学校運営の基本方針を承認していただき、保護者や地域の皆さんがより当事者意識を持って目標の達成のために連携、協働し、また、それぞれ役割分担をしていただきながら、子供の学びのさらなる充実を図ることを目指していくという運営方法を、学校、

園も進めてくださいとお願いしてまいりました。

まだまだこの取り組みを進めて2年目に入ったばかりなので、課題はたくさんあります。本日の協議の中で今後の取り組みの方向性が共有でき、子供たちの育成により多くの方が当事者意識を持ってかかわるようになることを期待して、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

ここで、総合教育会議の運営につきまして、少し補足をさせていただきます。

本日の会議は、木曾岬町総合教育会議要綱に基づいて運営することとなっております。要綱第4条の規定に基づき、本日は幼稚園長、小学校長、中学校長、青少年育成町民会議会長に出席を求めています。協議を進める上で必要な場合は意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、ここから協議事項に入ります。

まず、町長から協議テーマの設定についてお話をさせていただきます。

【加藤町長】 27年度から新しい教育委員会制度がスタートし、大きく変わったのはまず、本日の総合教育会議の構成でございます。町長と教育委員会から成る総合教育会議を立ち上げ、今年で3年目を迎えたところでございますが、こうした会議を通して、今日的な教育課題の解決はもちろん、木曾岬町の子供たちの健やかな成長を願って、今後の教育のさらなる充実、発展に努めていきたいと考えているところでございます。次代を担う人づくりを実現していくためには、学校や保護者、そして、地域の方が一体となって子供たちの育ちを支えていく、そうした地域社会の構築が最も大切である、重要であると、考えているところでございます。

現在、幼稚園、小学校、中学校では、多くの保護者や地域の方々のご支援をいただきながら、教育活動の充実を努めていると伺ったところでございますが、今後とも、地域が一体となって子供たちの育ちを支えていく社会やまちづくりにしっかりと取り組んでいきたいと考えているところでございます。今日のテーマである地域とともにある学校づくりに向けて、当町では昨年度からコミュニティ・スクールを導入いただき、幼稚園、小学校、中学校、そして地域との連携が深まることによって、さらに教育効果が高まるのではないかと、大きく期待をしているところでございます。

私は常に、人づくりはまちづくり、国づくりは人づくりとっております。次代を担う人材育成の観点から、学力の向上、英語教育の充実などを掲げて、木曾岬町の子供たちに

は、木曾岬ならではの特色のある教育を身につけてあげたいと思っているところでございます。木曾岬の子供たちが輝きと誇りを持って、この生まれ育ったまちに愛着と魅力を感じてくれるように教育施策を推進していく上で、幼稚園、学校教育だけではなくて家庭教育の充実も大きな鍵であると考えております。

コミュニティ・スクールは、そのツールとして大きな役割を秘めていると考えております。学校と家庭と地域がお互いに思いを共有し、地域とともにある学校づくりに向けて、地域の力を活用し、地域の皆さんと協働して子供たちの育ちを支えていく取り組みをさらに充実させていくためにという協議テーマについて、各委員さんのさまざまな視点から、ご意見を賜り、本日の会議が有意義な会議となるような協議を深めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 では、これから具体的な協議に入る前に、情報提供の1つとして、幼稚園、小学校、中学校の教育活動の場面に多くの保護者や地域の方の支援をいただいている状況を簡潔にお聞かせ願いたいと思います。

では、柴田園長先生から順にご発言をお願いいたします。

【柴田幼稚園・保育園長】 幼稚園・保育園では、昨年度と今年度、4月、5月、6月に行われた支援についてお話をさせていただきます。

木曾岬小唄の伝承ということで、木曾岬小唄保存会の方々に年4回来ていただき、踊りの伝承をしていただいています。また子供だけでなく保護者にも伝承していただけるということで、保護者にも参加していただいています。そして、やろまい夏祭りや夕涼み会の時に、小唄の方々、保存会の方々、保護者、園児と一緒に踊る機会を設けています。

また、10月は老人クラブとの芋掘りで、これは、芋を掘るだけでなく、老人クラブの会長にこういうものを植えるという説明をしていただき、芋掘りをしています。その後、老人クラブの方々のご厚意でふかし芋を作っていただいて、ふかし芋と一緒に食べるという経験をさせていただいています。

昨年度は、地域の方に協力していただき、園でとれた大豆を乾燥させ、きな粉づくりをしました。こうした食材1つについても、関心を持って、食べる意欲とか楽しみにつながることを期待して始めさせていただいたのですが、地域の方もなかなか大豆からきな粉をつくることはないので、子供たちも地域の方もすごく喜んで参加していただきました。その後、保護者の方にも園でつくったきな粉のおはぎを食べていただいたりもさせていただきました。

今年度に入って、ザリガニ釣りに行こうということで、近隣のお宅へ笹をお願いに伺いました。地域のお宅の方も声をかけさせていただくと、電動草刈り機を出して率先して竹を切ってくれて、こうするといよいよという感じで教えていただいたりしてくれました。このように、地域に出向くと、地域の方も率先していろんなこと協力してくれるので、ありがたい地域だと思っております。

また、今年度は、オープンデーという日を年に3回設けさせていただきました。オープンデーは、保護者や地域の方が自由に参加できるという日を丸一日設けています。6月に1日設けましたところ、そうした中で、子供の遊びや自発活動や、先生方の言葉がけを見ていただき、教師と保護者がともに学んでいけるような場をつくっていただけると。だめという言葉がけだけでなく、いろんな言葉がけを保育者も保護者も一緒に学んでいける場をつくっていかうと思っております。

また、私たちは通称ヤングおじさんと呼んでいますが、ヤングおじさん4名の方々に昨年度は2回ほど来ていただき、落下傘や飛行機の作り方を教えていただきました。私たち保育士が教えるのではなく、ヤングおじさんの方々の丁寧に教えてもらうので、子供たちもすごく親しみを持って、「おじさん、どうしてこれはふわふわ落ちるの」など質問したり、そういうことに答えたりしていただくなど、子供たちもすごく喜んでいます。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

では、小学校、小森校長お願いします。

【小森小学校長】 小学校におきましては、各学年別にもさまざまな取り組みがございます。その特徴的なところだけご紹介させていただこうと思いますが、その前に、学校全体としても地域の方にお世話になっていることがございます。一番大きなのは、やはり保護者の方、PTAの方々のご協力をいただくことで、例えば、夏休みの水泳監視とか、それ以外にも、日常的には通学時の交通安全の見守り活動、さらに、イベントがございますと、例えば運動会の際のテントの設営、保護者席の区割り等、さまざまなことで保護者の方には学校全体に大きくかかわっていただいていることがございます。

さて、学年別には、それぞれの学年が地域の方といろいろかかわることがございまして、例えば1年生は、老人クラブの方に昔遊びをさせていただくという機会が、冬場、例年12月ごろあります。このときは、老人クラブの方を招待ということで教えていただくのですが、遊びの活動だけでなく、給食を一緒に食べながら、グループの高齢者の方々と対話をして過ごすという、そうした人とのかかわりというのも大切な機会になっております。

あと、1年生、2年生ともに、木曾岬のお話し会さんにお世話になって、読み聞かせの会というものがございます。これは学期に1回ずつ、年3回開いていただいております。図書室で絵本や紙芝居等の読み聞かせをいただいております。子供たちもお話に興味を持ち、さらに本に興味を持ち、3年生以上になりますと、図書室の本をたくさん借りようという意欲にもつながっているところがございます、これが新しい図書館の本を読みたいなどということにもつながっていくといいなというふうに思っております。

2年生につきましては、木曾岬音頭・小唄保存会さんにお世話になって、木曾岬音頭・小唄の踊りを教えていただいております。これは既に今月の初めに2回お世話になりました、その方々とのつながりもそうですが、この踊りについては、やろまい夏祭りにもつながることになっているなというふうに思っております。子供たちもぜひ夏祭りで踊りたいということをよく聞かれます。そうした学校でやったことが地域の祭りにもつながっているものではないかなというふうに思っております。

3年生は、例年2月に老人ホームのすいせんの里を訪問させていただいて、老人ホームの方とのコミュニケーション活動も行っております。また、3年生は、本年度から、初めてですが、巨大カボチャを学校でつくるということで、地域の伊藤正幸さんや、巨大カボチャをつくる愛好会さんにもお世話になりながら、巨大カボチャをつくる取り組みを行っております。初めてですので、どのようになるかわかりませんが、子供たちも記録をとりながら、今楽しみに育てている状況でございます。

4年生は、地域の校医さんであります服部歯科さんに学校に来ていただいて、歯磨き指導を実際に行っていただきます。実際に歯に色をつけて、色が残らないように自分で丁寧に磨くという磨き方を具体的に、また一人一人服部先生が見ながら丁寧に指導をいただいております。地域の方にほんとうにお世話になっております。

5年生は、学校のビオトープにあります水田、田んぼで米づくりを行っております。これに当たっては、地域の服部法雄さんにお世話になり、本年度も稲を育てておるところでございます。田植えが済んで、今、水の管理に気をつけながら、子供たちが何とか収穫祭まで育てていくという取り組みを服部さんのご指導をいただきながら進めていくものでございます。

5年生はほかにも、10月ごろに毎年行いますが、赤ちゃんセミナーということで、保健センターさんを通じて、実際に赤ちゃんを育ててみえる地域の方に協力をいただいて、ほんとうの赤ちゃんを学校に連れてきていただいて、赤ちゃんと触れ合う、そうしたとこ

ろで命の大切さということも含めた学びを進めていくとともに、自分自身がその延長線上にいるんだということを理解する機会としております。

6年生におきましては、その命ともつながる話でございますが、教育委員の大橋さんに学校のほうに来ていただいて、やはり専門的に命にかかわるお仕事をされている大橋委員さんに、命の学習ということで、子供たちが一人ひとりの命の大切さを学ぶ、考える、そうした機会としております。

こうした取り組みの中で、子供たちが地域にいろんなことを感じていけるように願いとして取り組んでいる次第でございます。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

次に、中学校の白木校長先生、お願いします。

【白木中学校長】 今年度、第1回目の学校運営協議会を5月に行いました。委員の方6名と管理職2人で行い、学校の今年度の目標について承認をいただきました。その中で、いじめの話題や、中学生の自転車の乗り方が危ないのではというようなご指摘も受けました。忌憚のない意見を頂戴しながら、学校の運営にも生かしていきたいと考えております。その学校運営協議会は、今後、学期に1回ずつ、計3回行う予定でおります。

地域の方にご協力いただくということについては、たくさんの方が学校へ来ていただいておまして、大きく分けると、まず、授業、教科に関して来ていただく部分です。これは教科でいいますと、体育科、技術科、家庭科、音楽科、そして社会科というような教科の中で、地域の方に来ていただきまして、講座を開いていただいたりとか講演をしていただいたりとかしております。例えば家庭科ですと、浴衣の着方教室というのをやり、そして、体育科とコラボして、ついでに小唄を教えていただいて、浴衣を着た状態で踊りを教えていただくというようなことがあります。技術科では農業体験ということで、トマト栽培について工場見学をさせていただくというようなこともあります。

あと、2つ目に部活動に関してですが、こちらは、どうしても顧問が技術的な指導ができる者がついているとは限りません。その部分で、技術指導をいただける方ということで、部活動の指導に入らせていただいております。柔道、ソフトテニス、サッカー、ソフトボールが今年度の部活動での指導に来ていただく予定の部活です。特に柔道においては、部活動の指導だけではなく、体育科の授業の中に武道がありますので、その指導員としても柔道を教えに来ていただいております。

そして、3つ目ですが、特別活動や総合的な学習の中で地域の方にたくさん来ていただ

いております。マナー講座であるとか、あるいは防災、安全にかかわった部分、そして進路やキャリア教育というところにかかわった部分、また文化祭においては、文化講座ということで、町の公民館で指導をしている方に来ていただき、フラワーアレンジメントやフラダンス、手話や中国語、韓国語、和太鼓といったような講座を学校の中で開いていただきました。地域に子供たちが触れる非常にいい機会だったのではないかと思います。

また、2年生では職場体験学習をやっております。これは、地域、地元の事業所様にお世話になり、3日間、実際に働かせていただくことで、職業観や、自分の適性、あるいは生き方というようなことを学ぶことができるよい機会となっております。

子供たちは、4月からでも毎日いろんなトラブルがあります。それは、思うに子供たちの人間関係が非常に狭く、ほんとうの意味での友情とか友達関係というのがなかなかまだ構築されていないという中で、いろんな行き違いから子供たちはトラブルが起こります。そんなときに、学校の者だけではなくて地域の中の人が入っていただく、あるいは、そこで生き方、考え方を教えていただくことで子供たちは自分の見方を打破して、もっと広い見方、こんな生き方があるんだ、こんな考え方があるんだということを身につけて、ぜひ人間関係の幅を広げてほしいと思っておりますし、ほんとうの意味での真の友情というものをつくっていけるような土台になっていけたらなと思います。そういう意味で、たくさんの方が学校に来ていただくということは、非常に子供たちのいい刺激になっているのだと感謝しております。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 ありがとうございます。

町長、お願いします。

【加藤町長】 ありがとうございます。

ただいま、園長先生、小中学校の校長先生から、地域の皆さんからの具体的な教育支援の状況についてご紹介をいただきました。ほんとうにありがとうございました。改めて、多くの皆さん方、保護者や地域の方々が教育活動への支援をいただいている実例、状況を聞かせていただき、ほんとうにありがたく、また、心強い限りでございます。保護者や地域の方々の教育活動へのかかわりの中で、子供たちはこうしてたくさんのお話を学び、そして貴重な経験をさせていただいていると感じたところでございます。

そこで、改めて、幼稚園や学校と地域が協働して子供の育ちを支えていくこの取り組みの意義について、各委員さん方、皆さん方のご意見、お考えをお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【白木教育委員】 子供は本来、家庭、地域、学校の3つの場で育てていくのが望ましいということですが、昨今、家庭の教育力、特に地域の教育力が落ちたというわけではなく、子供たちに対するかかわり方が低下し、全ていろんなことが学校に委ねられていたという経緯があり、もっともっと地域が学校と協働して子供を育てていかなければならないと思っております。

子供たちは将来、大人になったときに、地域の皆様にお世話になったときのことをいろいろと覚えていると思いますので、地域に親しみを持ち、また、自分たちが大人になったときに、地域の子供たちにかかわっているいろんなことに力を入れてくれるというような、よい循環の形ができれば、いろんな面で子供たちが育っていくと思っております。今、たくさんの方の支援をいただいていることをお聞きして、ほんとうにありがたいと思っております。ぜひこれを続けていただいて、地域の皆さんが学校にいろんな面で協力できる体制をつくっていただきたいと思っております。

【加藤町長】 ありがとうございます。

ほかの委員さん、いかがでしょうか。

【藤井教育委員】 地域の力というのには何があるかということを考えるときに、具体的に何かと思うと、やはり人間の力、その地域に住んでいる人、地域でとれる食べ物、文化、それから基本的なまち、お金というものが上げられると思います。今、園長先生から校長先生のお話を聞いていると、人とかかわりということを非常に大事にいただいて、大橋委員さんの命の勉強とか、そういうことも含めて、非常にある意味では密接につながっているし、食べ物も芋掘りなど地域の特産や、文化の面では、踊りや小唄もやっていただいている。ほとんどマスターできているので、非常にありがたいと思います。

ただ、これを有機的に結びつけるというか、今、地域の中でも一部の人だけは熱心にやっていたとしても、私も含めて、ほかの人は、そういうことをやっていたということをお聞きしないとわからないということが現実にあると思うのです。だから、子供がいない家庭の方にも、今学校でどういうことをやっているのかがわかりやすい発信の方法、そういうものをもっと少し考えてしていけたらいいかなという思いでおります。

ほんとうに今の取り組みでいくと、楽しい思い出が将来の幸せにつながると思うということから、歌を歌ったり、食べ物をつくったりというのは非常にいいことだと思いますので、もっともっとその回数も増やしてやっていただきたいと思っております。

【加藤町長】 ありがとうございます。

【大橋教育委員】 今の藤井さんのことで、実際、確かに自分もそうでしたが、自分の子が小学校や中学校に行っていたら、自分の子に関心が行って、学校の行事にも参加する。もちろん学校からも子供を通じて情報をもらう。しかし卒業すると、自分の意識が向かないのと同様に、子供からも情報は来ない。しかし現実に、幼稚園、小中学校でこんなことをやっているという町民への発信は、今はどのようなになっていますか。

【教育課事務局（山下）】 各幼稚園、小中学校については基本的には学校の学年通信などで発信させていただきます。今年度につきましては、CS（コミュニティ・スクール）絡みで4月から幼稚園、小中学校の取り組みをシリーズとして連載をさせていただいておりますので、一応全てのご家庭には何らかの形で取り組み状況は伝わっているかなと思っております。

【大橋教育委員】 その媒体は広報ですか。それとも、ホームページですか。

【教育課（山下）】 広報です。

【白木教育委員】 そのことについては、いつも教育委員会で話していることですが、子供や孫が学校に行っていない家庭、こういう人たちに対して、今どのように学校のことを伝えていくということです。一番いいのは、今学校でやっているPTA会報とか、そういうものを全戸に配布したらどうか。どういうふうにするかということについては、広報で挟んで入れていただいてもいいのですが、全戸がPTAの賛助会員という形になって、今はこういう様子だよ、先生の異動もこうだよ、運動会はこうでしたよとか、本当にそういうものをPTA会報みたいにして全戸に発信するというのを。

PTAの賛助会員で、会費は取るのかという話になると、集めるのは大変だけれども、それは取ればいいのではないかな。やはりみんながいつかは子供たち、孫たちが学校にお世話になるということで、今の時点では子供がいなくても、また次、孫さんができるころにということになると、そういう切れ目の間でも学校とのつながりを持っていくためにも、今のような先生がみえるとか、どんなことをやっているとか、あまり難しいものではなくていろんなことを、ほんとうにPTAがつくったような会報紙でいいので、できたら広報に挟んで入れていただきたいなど。それが一番の、お年寄りにとってもよい媒体になるのかと思っております。

【加藤町長】 ありがとうございます。

【山北教育長】 教育へのいろいろな取り組みの意義ということを思いますと、園や学校が地域で協働していく意義はもちろんありますが、園や学校、地域が有する教育機能と

というのは異なって、3者がそれぞれの立場から子供の教育の責任を持っているというのが大原則なわけです。先ほど、白木委員さんがおっしゃいましたけれども、それはそれとして、されど、残念ながら、家庭の教育の力もそれぞれだし、昔と今と若干違ってきているだろうし、地域の教育も、やはり時代とともに変わってきているのだと。そのようなことを考えていく中で、その辺のところを互いに補いながら、より正常に家庭や地域や学校が機能するように、そして、さらに協働することでプラスアルファの効果が出るということでない、協働をお願いしていく取り組みの意義はないと思います。

そういうことを考えていくと、例えば、大橋委員さんが、小学校の6年生の中で、命の大切さとか命の重みとかという、そういうお話をやっていただくと。その場合、大橋先生がそういうお話を子供の前でしていただくような機会を学校でお願いしていなければ、子供にとっては学びの質がより充実したものにならないと思うのです。それは、学校の職員が命の大切さのことを授業としてやるかもしれないけれども、大橋委員さんをお願いすることで、実際に終末医療にかかわって、いろんなことを経験なさっている中でのお話というのは子供に響くものがあるわけです。それは、学校がそういうことの仕掛けがあればこそできる。こういう協働した取り組みというのは、まだまだいっぱい埋もれていると思うのです。

そういうものを例えば自分の教科の授業の中でやれないだろうか。例えば、家庭の中でミシンの授業があるとしたら、自分が1人でやるのではなくて、地域の方にお手伝いしてもらえるのだったら、今日の時間の目標は、ミシンを使うときの糸をどう張って、こういう縫い方を子供たちにマスターさせたいということを、指導する教師とお願いする方が授業の共通の目的を図り、その方に入っていただくことで子供たちもより習得ができるであろうし。だから、それは子供にとって学びや体験の活動が充実するということで、これは協働する意義があると思います。

それは一方保護者にとって考えてみれば、子供たちは、学校の先生だけではなく、地域の確かな力を持っている方にも一緒に教えていただいて、子供は学校でも教えてもらっているけれども、地域の方にも支えてもらっている、地域の中で子供を育ててもらっているのだという実感として、保護者にも伝わると思うのです。そのようなことを考えると、学校や地域に対する保護者の理解は深まっていくのではないかという思いがしています。

もちろん、お願いするということは面倒なことかも知れませんが、自分の持っている力とか経験を、子供たちに伝えることで生かすことができる。ある意味、そういう方

にとっての生きがいがいづくりにつながるのではないか。つまり学校、園を中心として、地域のいろいろな方とかかわっていくことでネットワークを形成しながら、それが最終的に地域の力となるということが、この取り組みをやっていく中での大事な意義だと思います。

そういうことをやっていくと、学校運営の責任を持つ園長先生、校長先生方は、さらにもっといろんな地域の中で埋もれていることを発掘しながら、学校へ取り込んでいって、つまり、子供の力になるような還元が経営の中でできるのかということを経営の視点として捉えていくことが大事だと思うのです。その中で、こんな人がいないかという困り感が出てきたときに、それを助けていただく組織として、青少年育成町民会議の中にある家庭教育部会で学校地域支援本部があり、そこら辺が中心になって人材を発掘していただくことにつながっていく有機的なかわりを持っていかせるためにも、やっぱり発信元は、学校運営をやっていただく園長先生、校長先生が、地域とともに協働しながら子供の力をつくっていくという辺に焦点を置いた学校運営に心がけていただくことで、よりこの取り組みの意義が出てくるのではないかという思いを今聞かせていただいていたわけでした。

【加藤町長】 ありがとうございます。

それぞれご意見をいただきましたが、その中でも藤井さんから、地域の力にはいろいろなものが考えられるけれども、人とか文化とか食だとか、場合によってはお金も必要だろうと。私は、木曾岬の魅力というか良さは、小さいまちですが、非常に人柄、土地柄を自慢にしています。そういったことが一番端的にあらわれているのが、先ほど園長先生や校長先生方がお話いただいたことにあらわれてきているのかと思います。それが小さいまちであり、幼稚園、小学校、中学校も1校で、町民の皆さん方が温かく、また、時には厳しい目で学校や子供たちをいつも見ている、そして、いろんな団体の人たちが積極的に参加をいただいて、学校や園の運営に協力をいただいていることにあらわれているのかなと感じたところでございます。この点については、そろそろよろしいでしょうか。

【加藤町長】 それでは、各委員方からさまざまな視点から貴重なご意見をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。ただいまのご意見の中にもありましたように、保護者の皆さんや地域の方々が子供たちへのかかわりは、学力の向上にとどまらず、さまざまな効果が期待できることがわかってまいりましたし、協働することの意義深さというものを認識させていただいたところでございますが、今後とも積極的に教育活動にかかわっていただくことが子供たちの健やかな成長と人材育成につながっていくと確信いたしているところでございます。

町といたしましても、次世代を担っていただく人材育成に取り組んでいるところでございます。1つは、子供たちに参加と活躍の場をつくって、自分たちのこのまちに魅力を感じてもらい、そしてまた、何よりも人々との触れ合いの中できずなを深めてもらおうということで、三重大学との協働によって、現在新たな取り組み、挑戦を始めているところでございます。それが地域人材プログラム、あるいは、かえっこバザールといった形で取り組みを進めているところでございますが、この点について、森政務統括監のほうから説明をお願いしたいと思います。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 では、説明をさせていただきます。

お手元にパンフレットを配付しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

この資料は、昨年の総合教育会議のときに内容をご紹介させていただきました人口ビジョンと総合戦略の概要版となっております。

簡単に紹介させていただきますと、左側は人口ビジョンということで、2060年の木曾岬町の人口モデル、2060年に5,000人の人口を確保していこうという基本目標を定めたものでございます。また、右側の資料は、この人口フレームを確立するための4つの基本目標に沿いましたそれぞれの諸施策をまとめたもので、これが総合戦略の概要でございます。

本日は、もう1枚資料を配付させていただきますして、目標像の実現方法と記載がありますが、この資料が施策の1つの実現方法であり、先ほど紹介がありました三重大との協働研究による人材育成プログラムにかかわる部分の抜粋資料でございます。

地方創生事業は、平成27年から取り組んだ事業でございまして、その中の1つに木曾岬わいわい市場という設定がございます。この中のにぎわいづくりの1つに青空市というのがあり、この催しを通して人材育成プログラムに取り組ましまして、町内の中学生と三重大の学生との協働により、町の魅力ある人物や技術や製品、これらを発掘、取材して、これを多くの人たちに発信、紹介していくというかつてない試みにチャレンジをしております。これまでに2回開催をしまして、14名の方々の人物紹介をさせていただいております。

また、同じくこのわいわい市場の中で開催をいたしております、幼児とか小学生を対象とした木曾岬かえっこバザール、これは子供たちの主体を引き出す仕掛けづくりの事業ということになっておりまして、町の将来を担う子供たちへ体験機会を定期的に提供することによりまして、保護者を巻き込んだ社会参加の機会を増やすことにより、毎回とてもに

ぎわいを感じられる状況になっております。こうした取り組みを繰り返すことで、徐々にですが、子供たちの心の中に郷土木曾岬への愛着という意識が浸透していくのではということをご期待しており、人材育成の観点からも、この新しい取り組みは木曾岬町にとりまして大きな一歩になったと考えているところでございます。

説明につきましては以上でございます。

【加藤町長】 ありがとうございました。

ただいま、森政務統括監より、町が取り組んでおります地方創生総合戦略の中の地域人材プログラム、かえっこバザールについて説明をいただきましたが、ここで少し整理をしていきたいと思っております。

先ほど来、コミュニティ・スクールについての話題が出てまいりましたが、これまでの保護者や地域の方々からいただいております教育活動へのサポートとコミュニティ・スクールを導入したことでは、どのような違いがあるのか、これからの協議を深めていく上で、参考にしたいと思っておりますので、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。

【教育課（山下）】 それでは、資料に目を通していただきながら、関連してお話をさせていただきます。

先ほど、教育長の話にもございましたように、平成28年度から木曾岬町では、地域に開かれた学校から一歩踏み出した、地域と一体となって子供たちの育ちを育む、地域とともにある学校づくりへの転換を図ってまいりました。一歩踏み出すということは、共通の目標、ビジョンを共有するからという意味からでございます。私なりにかみ砕いて申し上げますと、地域に開かれた学校づくりは、保護者や地域の皆様はお手伝い、応援団ということです。地域とともにある学校づくりは、保護者、地域の皆様は、あるいはパートナーシップという捉え方でございます。この地域とともにある学校づくりを推進していく上で大きな役割を果たしておりますのが学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールであります。

お示しさせていただいております資料には、今お話しいたしました内容がまとめてございますが、持続可能な制度であること、あるいは、町民総がかりで子供たちの育ちを支えること、緩やかなネットワーク形成のもとで、皆さんで連携、協働ができることなどがメリットであると言われております。このコミュニティ・スクールを軌道化させることで、資料にもございますように、子供にとって、保護者にとって、教職員にとってどんな魅力があるか、そして、地域の皆様にとってどんな魅力があるかということが引き出されるの

ではないかと考えられます。現在、教育委員会では、このコミュニティ・スクール導入2年目を迎え、その取り組みの充実に努めているというところでございます。

簡単ではございますが、事務局からは以上でございます。

【加藤町長】 ありがとうございます。

ただいま、事務局の説明で、これまでの開かれた学校づくりとの違いでありますとか、コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の機能、あるいは、協働するとはどういうものなのかが整理できたかと思えます。まさに、お話の中にございましたよきパートナーとしての関係づくり、これが有機的、非常に魅力的だと感じたところでございますが、コミュニティ・スクールを導入している全国の自治体の中には、地域活性化の拠点として学校や幼稚園を活用した地域づくりを進めているところもあるとお聞きいたしております。地域力を高め、みんなで支え合うまちづくりを掲げております当町にとりましても、このコミュニティ・スクールを核とした地域との協働が、地域づくり、まちづくりにも大きくつながってくるものと期待をいたしたところでございます。

そこで、地域づくりの観点から、コミュニティ・スクールを機能させていくためには、今後どのような取り組みを推進していけばよいか、このことについて各委員さん方のお考えをお伺いしたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

【大橋教育委員】 最初に確認させていただきたいことがあります。この資料は、木曾岬独自のということよろしいでしょうか。

【教育課（山下）】 独自のものも踏まえて、全国的に、一般的に言われているところもでございます。

【大橋教育委員】 持続可能性、町民総がかり、緩やかなネットワーク形成とあるところで、3番目のネットワーク形成に緩やかなという修飾語がついているのですが、このことをもう少し解説してもらってもいいでしょうか。

【教育課（山下）】 これは、先ほど申し上げましたように、目標でありますとかビジョンを共有するということに起因するかと思えます。それぞれの立場で、目標共有、ビジョンを共有することは、目標が同じであれ、立場が違えば、その迫り方も違ってくると思えます。そういう意味からしますと、1つのベクトルに向かって、私は何ができるかというようなところの視点からの出発かなと。そういう意味で、緩やかなネットワークが形成できるものかなと感じます。

【加藤町長】 よろしいでしょうか。

それでは、先ほど申しましたことについて、皆さん方からご意見をいただければと思っております。

【白木教育委員】 町民全体で行うためには、町長さんをはじめ議員さん、区長会、青少年など、いろんな団体と全体会議をして、報告会、経緯報告という形で全体の会合の場を持ったかどうかと思っています。

もう一つ、運営委員会の委員さんは、ある程度ご年配の方が多くと思いますが、この委員の中に、先ほど三重大学の話も出ましたが、高校生や大学生も入れられたらと私は思っています。

それから、校内で、年間何回か小中の連絡協議会をやっていますよね。その校内にあって教室があればコミュニティ・スクールルームというか、そういう部屋を1部屋設置し、委員さん方が自由に集まって協議したり、いろんなことを掲示したりできる場所も1つあるかどうかと思います。具体的な施行としてそのように感じました。

【加藤町長】 そういった地域づくりの拠点的などころを確保するということですね。

【白木教育委員】 学生は入れないのですかね、大学生として。教育長、どうですか。その運営委員会に大学生を入れるということは他ではあまりなくて難しいですか。

【山北教育長】 協議内容によっては、学生さんの声を聞きながら進めるということもございます。

【白木教育委員】 若い力を添えてもいいかなと思ったのですが。

【山北教育長】 学校運営協議会の委員に学生を入れるということですか。

【白木教育委員】 はい大学生を。

【山北教育長】 新しい法でこんなことを言っています。学校運営協議会の委員には、学校をいろいろ支援していただいているような方々についても率先して入るよう門戸をもっと広げたらどうですかと。その中で、学生とかという縛りがないので、木曾岬町としての考え方でやっていけるとは思います。

【白木教育委員】 学生にこだわりませんが、若い人も入れたほうがいいかなと思いました。

【加藤町長】 白木委員からそういったご提言、ご提案がございましたけれども、またほかの委員さん方、ご意見がございましたら。

【藤井教育委員】 役場の方にお伺いしますが、この人口ビジョンで、学校教育の満足度が今現在87.6%で、31年度の数値目標が85%以上ということは、今よりも低い目

標を設定されたということですか。

【山北教育長】 これは、満足度を設定するときに、87.6%というのはかなりの高い状況だろうとしているので、31年の時点にはこれを維持していくか、あるいは、85%以上を保つたらいいのではと設定したもので、下方修正したというよりも、85%を保つという意味合いだと思います。

【藤井教育委員】 今の教育長の説明でわかりました。せめて現状維持ぐらいにしておいていただければありがたいと思います。

【山北教育長】 この87.6は毎回議会のほうへ事業報告させていただくアンケート調査の数字だと思います。しかし、その数字は毎年若干のぶれがありますので、31年も85ぐらいは保っているようにという数値目標で上げたのだと聞いた記憶がありますが。

【藤井教育委員】 85%でも十分高いと私も思いますので、それはそれで結構です。

【加藤町長】 当然、その時点でいろいろと議論、検討されてこの数値を設定したと思いますが、その経緯は、協議した過程での記録が残されていれば、説明できるように確認をしておいてください。

【山北教育長】 少し確認をさせてください。

【藤井教育委員】 コミュニティ・スクールの件ですが、地域の人々はパートナーだという説明をいただきました。しかし、パートナーならば、やはり相手のことを知らなければなり得ません。実際、私ども地域の間人としては、どれだけ学校教育サイドで、こういうことがしてほしい、ああいうことがしてほしいとか、どれだけ学校が忙しいのかというのが具体的にはわかりません。新聞にも、教職員の超過勤務などいろいろなことが書いてありますが、実際、教職員をやったことがないので、どれだけ忙しいかわからないし、そういうことからすると、学校が主体となって、地域にこういうことをしてもらいたいとか、お願いしたいとか、やってほしいという発信を、学校運営協議会の席でも構いませんので、それを絶えず出して、それを広報などで、地域の人、住民の人、皆さんに学校がどういうことを考えているのかということをお教えいただきたいと思います。

そうしないと、パートナーと言われても、何をやったらいいのかと。米づくりを指導されている服部さんとか、命の教育をされている大橋委員さんとか、そういう個別の方ははっきりわかるでしょうけれども、その他大勢の地域の人に、どういうことをもっとやってほしいのかということをお教えいただければと思っております。その中で、自分のできること、できないこと、これならやってみようかということがわかると思いますので、お願

いしたいと思います。

【加藤町長】 ありがとうございます。

これも具体的にどういった形で皆さんに理解をしていただけるのか、藤井委員さんの的を射た、当たり前のことだと思しますので、お願いします。

【大橋教育委員】 私も、このコミュニティ・スクールの導入は、資料にも書かれていますが、ほんとうにいろいろな利点、長所のあるすてきなことだと聞かせてもらいました。この魅力というものも、子供、保護者、教職員、地域の人々のことが上げてありますが、私個人的には、学校の先生が一番大変だと思っています。自分のところも含めて家庭の教育力と言われてもやっぱりできないし、子供は基本、朝の8時半から、中学だったら5時、6時まで学校で生活している。それ以外は家で生活しているといっても、夜寝る時間も含んでいるので、自分も子と話をしているか、何かしているかといっても、常に24時間一緒にいるわけではない。すると我々働く人が会社というか職場で大半過ごすのと同様、特に小中学生にとっては学校が主たる生活の場だと思っているのです。そこで教育もしてもらっている。当然、学校の先生が一番大変だろうと。

教育長がおっしゃっていたことと重なりますが、自分が教師だとしたら、もっとうまく自分以外の人たちを使ってくださればいいのと思うのです。教えるにしたって。私ごとですが、1年に1回小学校に行かせてもらっています。いろんな事情がありますが、2回、3回でもいいし、中学校でもということは個人的には思っています。それ以外に町内でも、ほんとうに立派な人といえますか、立派じゃなくたって、いろいろと生きてきて、ほかの人に示せるものを持っている人、言えば、六千何百人の人、みんなそうだと思うのです。だったら、使えばいいのにと。

いい意味で、使うとどうなるか。この教職員にとっての魅力の一番下に、地域の方の協力により、子供と向き合う時間が確保される。確かに、しかるべくなんですけど、私は弱いと思うのです。もっと端的に、先生が楽になるというふうに。なかなか公の文書で言いくいと思いますが、そうしてほしい。日本人は楽になるというと、サボるとか。実際、学校の先生で5時、6時に帰るときは少ないと思うのです。でも、私は、それはおかしいと思っていて、勤務時間内に終えて、あとは好きなことをやっていいのではないかと。もっと言えば、学校を離れたら、時と場合によるでしょうが、生徒のことなんか無視してもいいのではとも思っている人間なので。そうしたら、もっともっと楽になって、時間ができたら、プライベートな時間、それも有給とか、平日でも休みをとってもらっていいので

はないかな。

そうすることで、逆に、勤務時間内に生徒と向き合う時間、やっぱり時間だけじゃなくて質も大事だと思いますが、8時半から5時まで生徒と向き合っても、時間はそうでも、中身が問われると思います。それは、休みをしっかりとって、自分も心身ともにリフレッシュされた状態じゃないと、なかなかできないと思うのです。私ごとですが、例えば、夜勤明けや当直明けは、絶対昼間、普段通りできないです。だからもっと先生方に楽になってほしいなど。そのためにも、いろいろ使えるものを使ってほしいというのが、正直な、率直な感想です。

【加藤町長】 今までの私どもとはまた違った視点からのご提言をいただきまして、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

【山北教育長】 ちょっと違う切り口でお話しさせてもらおうと、コミュニティ・スクールを使って地域づくりをやっていくことは難しいのですが、どういうことを取り組んでいくことでこの地域づくりになるかということ、例えば、町は子供たちにどのようになってほしいのかということ、いい子に育ててほしいけれども、木曾岬町の将来コミュニティを担うような人材としてやっぱり育ててほしいというのは総体的な願いだと思います。地域を担う人材に育ててもらおうと思うと、子供たちに地域のよさなり、あるいは、今地域が抱えている課題なりをやはり伝えたい。そういう伝える場として、例えば1つは、森さんが話をされたように、地域のいろんな人を発掘したり、実際活躍している人たちを子供たちが調べたりしていく中で、地域にはこんな人たちもいるということ、勉強していくことでやっていく。

これは、授業とは離れた土日の活動の中で、手を挙げたわずか数人の子供が、そういうことを勉強して発信させてもらっています。そこに参加した子は、地域にはこのような活躍をしている人がいて、それをアピールする。その子たちはプレゼンターとして役割をもらい、町長から名刺をいただいているといいます。それは、それに参加することで子供たちは地域のよさを知り、私は地域の一員としてこんなことをやっているという、将来の地域のコミュニティを担うような一員を育てることができると思っています。

そういうようなこと全てを常に学校ができるかということ、なかなか難しいです。学校の教育の中では、学習指導要領に基づいてカリキュラムが組まれ授業をする。そんな中で、町として、子供たちがもっと地域に出てきて、例えば祭りに参加したり、あるいは、参加

だけではなくて企画にも参加したりして、ともに祭りを盛り上げていくなどさせていきながら、地域のよさも勉強させて育ててほしいという願いが行政のほうにはあるのです。

そのようなことを考えていくと、学校は学習指導要領の中に決められたことで進めていかなければならない。学習指導要領の中にも、地域のことを勉強していきましょうというところがある。そんな中で、将来の地域を担う人材として育ててほしいというまちの願いや思いを学校はどこまで共有し、酌み取り、地域の行事や施策と手を組みながら、子供を参加させられることをある程度焦点化して、それを行政と学校と地域とが1つ、2つ考えてやっていくことはできないか。

今、教育委員会で危機管理課とタッグを組み合わせながら、学校の先生も加わって地域の防災にかかわる取り組みをやっています。これは後で、事務局にポイントで説明してもらいます。

また、小学校で今カボチャを育てて観察していますが、例えばフェスティバルなど、それをまとめとして発表するような機会があれば、教えてもらった方は、自分たちが教えたことを子供たちがこうしたのだということを知る機会となり、発表を見に来た保護者は、こんなことをやっていたということを知り、広がりになっていくのではないかと。

中学校では、桜堤防の清掃活動をやっています。実は、桜堤防はシルバーさんに委託をして清掃をしていますが、例えば、シルバーさんがやれないところをやるとか、シルバーさん一緒にやるとか。町のそれぞれの地域でやっている清掃活動とタッグを組み合わせながら、中学生もそこに入ってそういうことを一斉的にやっていくとか、何かそういうさまざまな仕掛けをどこかで協議をすることで、今やっていることをより地域と密着しながらやることができないのかと。あれもこれも、学校の先生も来て、地域と一緒にというのはなかなか難しい状況にありますが、今やっていることをもう少しまぐ精査すると、地域の狙いと学校が、地域のことをわかって子供を育てたいということと学校の取り組みとがうまくマッチングできないのかと。

実際のそういう教育活動が、学校は地域に貢献し、地域から子供は学ぶという、双方向の動きをつくることで、やってよかったという結果につながるのではないかと思います。

これをうまく成功させている例をいろいろ調べていましたが、木曾岬として引用できるようなうまくいっている例はなかなか見つかりませんでした。

そのような中、現在、危機管理課とタッグを組み合わせながらやっている防災の取り組みを少し事務局より紹介させていただきます。(1:18)

【教育課（山下）】 昨年度、危機管理課に防災指導員の方が来ていただいたというタイミングで、それと片方では、木曾岬町の人口ビジョン、総合戦略の中に、中学生が町の行事参加に、年2回中学生の活躍する場を設けるという指標がございます。その絡みで、昨年度、木曾岬町の学校防災・防災教育連絡協議会というものを危機管理課とともに立ち上げさせていただきました。要は、役場、学校、教育委員会、この3者が、よりよい子供たちの防災の取り組みを構築していこうというような取り組みでございます。

その中で、特に中学生がいかに自助プラス共助の一翼を担うことができるかというところに主眼を置きまして、中学生の活躍の場を探っていくということを昨年度からしております。昨年度の様子からいきますと、簡単な受け付け業務、あるいは誘導業務、そのぐらいからスタートはしています。今年度は、聞くところによりますと、避難所開設といったところに、ひとつ踏み込んでやっていくと聞いています。その中で、子供たちが自助、共助をソフト面から学んで、行く行くは木曾岬の地域貢献、郷土の愛着というところに結びつけていく、十分な地域づくりにつながっていけばなと考えています。

【加藤町長】 ありがとうございます。

それぞれいろんなご意見をいただきました。白木委員さんは、協議会の拠点をつくって、また、若い人たちにも参画していただくような形をとったらどうだと。また、藤井委員さんからは、パートナーと言うけど、パートナー自身をもっとよく知っていただく必要があるのではないかとこともいただきました。また、大橋委員さんからは、先生、教師の集中とオン、オフ、しっかりと集中するときにはしっかりと子供さんたちを見て取り組む、また、休むときはしっかりと心身ともに休め、また集中してもらおうといったことも大切ではないかというお話をいただきました。

もう一つ私のほうから、町では、地域まちづくり推進交付金事業ということをやっています。これは、防災もありますし、地域のコミュニティもあります。その中には、自分たちのまちは、自分たちの地域は自分たちでということが根底にあります。もう一つは、親子、あるいはお年寄りと子供たちとの世代間の交流なり、あるいは、歴史、文化の継承なり、そのようないろんな活動をしていただくことによって、さまざまな成果、効果につながってくると思っており、まさにそういった各地域、各自治会の中で活動していただくことにも、こういったことと重なってくるのではないかと感じました。

委員の皆さん方からさまざまなご意見をいただきましたけれども、この点については、そろそろまとめさせていただいてよろしいでしょうか。保護者の方々、そして地域の方々

の教育活動支援と学校や子供たちとの地域貢献、この双方向の流れをつくっていくことがコミュニティ・スクールを機能させることにつながっていくと、そして、ひいては地域づくりの大きな核になるのではないかと感じたところでございます。

時間も経過しておりますので、ここで話題の方向性を少し変えたいと思います。

当町では、複合型の施設建設事業に取り組んでおり、現在2期目の工事で、教育文化棟、1階が図書館、2階が町民ホールということで工事を進めています。福祉・教育センターの改修もあわせて、今年の11月の完成を目標に複合型の施設建設工事を進めております。

そこで、教育文化棟の中でも、図書館のことについて、話題をかえさせていただきたいと思います。

教育文化棟は、知の拠点、町民の集いの場、交流と発信の拠点でもあると大きく期待させていただいており、町民の皆さん方、幅広く大勢の皆さん方にご利用いただくことが、より効果が上がるのではないかと、そして、効果的に活用していただく中で、とりわけ子供たちの健やかな育ちの支援に生かしていけたらと考えております。それには、まず、多くの子供さんたちにこの図書館をご利用いただけるような工夫が必要だと思っています。教育委員会では、定期的なイベント企画など、子供さんたちが図書館や読書に興味や関心を深めてもらえるような企画や計画を進めていただいているところでございますが、今日は園長先生や校長先生にもご出席をいただいておりますので、ぜひ、教育活動と図書館との連携と活用を積極的に進めていただきたいと思います。

そこで、各先生から、図書館との連携、あるいは活用について、お考えがございましたらお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。どのように図書館との連携を図っていく、あるいは、図書館をどのように活用をしていくということで考えがございましたら、お聞かせください。

【柴田幼稚園・保育園長】 幼稚園・保育園のほうからです。

幼稚園・保育園は少し小さいのですが、中部保育園・幼稚園に一つになると、近い場所なので、四、五歳児はちょくちょく出向いて、本や絵本を借りに行こうかと計画をしています。そのように絵本を借りて、返すときは保護者と一緒に返すという形ができれば、保護者にも図書館を活用していただけるかと。

【加藤町長】 そういう広げ方、いいですね。

【柴田幼稚園・保育園長】 広げていけたらいいかなと思っています。

【加藤町長】 ありがとうございます。

校長先生方、どうでしょうか。

【小森小学校長】 1つは、読書好き、本好きになるということで、読み聞かせなどもその窓口の1つではあるかと思いますが、校内では、自分がこの本をお薦めするということで、私が薦める1冊として実際毎年行っており、一人ひとりが本の紹介をする取り組みを、これは図書館の活性化委員会さんとも連携する話ですが、お薦めする本を紹介するパンフレットづくりを新図書館オープンに向けてしているので、それを子供たちから募って、そのパンフレットの中に子供の紹介する本を載せていただく。そして実際にその本を図書館のほうに置いていただき、そのお薦め本のコーナーをつくっていただく。そうすることによって、子供たちも行く気持ちもそうですし、子供たちが選んだ本が新しい図書館にあるという思いで図書館へ行くことや、お友達を連れていくことにもつながっていくと思います。

また、小学校の社会科の3年生の学習では、地域にある公共施設の学習をすることになっております。その1つは役場ですが、図書館という新しい公共施設ができますので、小学生は新しい地域の公共施設としての勉強に、出向いて貸し出しカードをつくり、そして図書館というものがどういうものなのかという社会科の学習をしていくことも当然やってまいりたい。これは、毎年3年生が取り組んでいくことになるかと思いますが。そうしたことも1つ考えていることでございます。

【加藤町長】 ありがとうございます。

【白木中学校長】 中学校は、この前の土曜日に土曜授業をやりました。そのときに、この回は自由に子供たちがきて、自分で自主的に勉強しようということで開きました。1年生は6割ぐらいの子が来て、2年生、3年生になるとちょっと少なくなりましたが、子供たちは、そのように休みの日に自分で時間をとって勉強するような場所を欲しているのかなと感じました。桑名では、メディアライブに試験期間になると中高生が朝6時から並ぶのです。そうしないと場所がとれないのです。それぐらい自主勉強室は非常によく使われています。まずは、中学生あるいは高校生、町には大学生の子もいると思いますが、自主的に勉強できるようなルームがあって、そこが広くオープンにされていれば、またそこを手がかりとして図書館に足を向けるというようなことになるのではと思います。

また、学校の取り組みとしては、小学校でもありましたように、宿題として私の薦める1冊の紹介ということもやっていますし、総合的な学習で、例えば職業体験する前に職業調べや、沖縄へ修学旅行に行く前に沖縄のことを調べようと、平和学習もやっています。

その調べ学習を行う上で、学校の図書館もそうですが、近くに図書館があれば、そこを自由に使って、より広く調べ学習ができるのではないかと思います。

【加藤町長】 ありがとうございます。

それぞれ、さまざまな取り組み、方策を考えていただいているようでございまして、今後の図書館の活用について、大いに期待させていただいた次第でございます。図書館のにぎわいというのは、そのまま地域づくりにもつながっていくものと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

子供たちの図書館の活用や図書活動の充実につきましては、あわせて家庭の協力が不可欠であると考えております。多様な読書活動の取り組みを一層普及させて定着させていくためには、家庭や地域への啓発を進めていくことが必要だと思っております。

そこで、今日の最後の協議になりますが、子供たちが図書館に魅力を感じ、多くの子供たちにこの図書館の活用を促すために、家庭や地域をどのように巻き込んでいけばよいのか、これにつきまして、各委員さん方のお考えをお伺ひしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。先ほども園長から、親子で図書館へというような話もあって、非常に有機的といいますか、いい試みだなと感じたところですが。

【白木教育委員】 子供たちに図書館に来てもらうということですが、これは、小学生等の幼い子供たち、先ほど言われましたように、家庭、家族が利用できるように促進することがまず重要だと思います。ですから、今園長先生が言われたように、家族、家庭を含めて子供たちに利用できるようにしたいということ。

これは、図書の返却に際してのことを言われましたが、事務局としては小中学生の返却は学校でできるかと考えてみますか。返却は、図書館でなく小学校や中学校でも朝返せる、回収に行くというのはどうですか。そういうことは考えてみえないですか。

【教育課長（西川）】 今ご提言いただきました件については、学校とも調整をしていかなければならないことかと思いますが、想定していなかったことで、大変参考になるご意見かと思っておりますので、検討させていただきたいと考えております。

今、先生方に学校の取り組みを紹介していただきましたが、行政、教育委員会からも積極的に打って出たいことがありますので、その辺を少し説明させていただきます。先ほど小中学校の校長先生からもありましたように、お薦めの1冊ということで、子供さんたちだけでなく、成人も含めてですが、自分の好きな本をチョイスしてもらい、それを図書館の中で冊子にして来ていただくとか、あるいは、読書登山といいまして、いろんなところ

にシールを貼っていくといくこと、すごいシールを貼っていくのが子供たちのトレンドという情報も入っていることから、幼稚園から小学生までの子供たちに向け、そのような導入を図っていくということも検討しております。

先ほど、白木委員のほうからご紹介いただいたように、借りるのは来ていただかなくてはなりません、子供たちが返す場が、もし学校で可能となれば、より利便性も上がるということです。今やりますといはなかなか言えませんが、検討させていただくことが大事かと考えております。

【白木教育委員】 もう一つ、小学校の帰りに図書館に寄るというのは寄り道にはならない、それはいいということにするのですか。

【小森小学校長】 それも検討課題になるかと思いますが、学区で行っている集団下校もありますし、そうした部分の安全面も含めて検討していきたいなと思います。

【白木教育委員】 そうですね。家に帰ってからまた来るといって、自転車などと思いますが、いろいろ利用方法を考えると、そのような検討も必要かと思いますが。

就学前の子供に対する親子の読み聞かせなど、いろんな企画も考えていただけているので、よろしく願いいたします。

それから、もう一つ、大人がたくさん利用すれば、子供や孫も利用できるのではないかなということで、難しい本、図書ばかりでなく、新聞、週刊誌、月刊誌、趣味の本、こういう本を、借りるまでいかに気軽に来て見ていけるコーナーも必要だと思います。とにかく気軽に来ていただくということを考えて、実際に本を借りることは考えていなくても、新聞や週刊誌は見るというような感じで来ていただけるよう、図書館になじみでない方々も気軽に来ていただけるように、最初はやっていただきたいと思います。やはりいろんな形で利用がないと、せっかくの立派な図書館ですので。ぜひ、あんまり読書に興味のない方も来られるような企画をしていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【加藤町長】 ありがとうございます。

ほかに、どなたか。

【藤井教育委員】 図書館で、食べることはいけないと思いますが、お茶ぐらいは持参して飲んでもいいのか、それとも、禁止なのか、その辺はどのようにお考えか教えてください。

【教育課長（西川）】 今考えているのは、やはり委員がおっしゃるように、食べること

はご遠慮願おうかと。最初はそのようなコーナーも考えていましたが、管理上徹底ができなくなる可能性がありますので。飲むことについては、水筒やペットボトルなど、キャップのあるものについては認めていこうかという方向で今検討させてもらっています。

【藤井教育委員】 図書館内にティーサービスの機械とか、そういうものは置かないのですか。

【教育課長（西川）】 それは今のところ考えておりません。

【山北教育長】 行政棟には自動販売機がありますので。

【加藤町長】 よろしいでしょうか。

大分時間も押ししておりますけれども、なかなか今日は声が聞こえないので、宮崎さん、お願いします。

【宮崎教育委員】 図書館に、誰でも見えるように、先ほど言われたコミュニティ・スクールの資料が置いてあったり、掲示板などで、保育園や小中学校のお便りなどを張ったりしておいてもらいますと、もうすぐ小学校は運動会があるなどか、中学校は体育祭があるなどか、そういう誰でも見えるコーナーが、ちょっとあったらいいなと今思いました。

【白木教育委員】 イベントスペースはあるのですか。

【宮崎教育委員】 白木委員さんも言われたコミュニティルームみたいな、ルームまではいかなくても、地域の方がもし今日集まるよといったときに、図書館でちょっと一角貸してもらい、皆さんでお話しできたらいいかなと思ったりするのですが。図書館は本を借りるだけじゃない感じで。

【加藤町長】 談話はどうなの。

【山北教育長】 談話室は設けておりませんが、多目的スペースが空いていたら、使っていただける制度を設けていきます。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 福祉・教育センターには、今度町民会議室をたくさんつくりますので、そこの利用は十分できると思います。

【加藤町長】 使い分け、すみ分けはこれから考えて、調整していただきたいと思いません。

【白木教育委員】 図書館の中にないとあまり必要ないね。外では、図書館に来ていただくことにならないので。

【山北教育長】 教育文化棟の形が見えてくると、だんだん焦りが出てきますが、本当に図書館はできたけれども、いつも閑散としていて、誰もいなくても電気はついていて、

これだけの人も要らないと思われるような状況がずっと続くと耐えられないなと思っています。かといって、図書館はどれだけ発信しても、ご本人がその気にならないと足を運ばないのです。そんな中で、いろいろな市や町が取り組んで成功した例というので、あるところでは、読書のまち宣言をして、せっかく建てたのだから、大いに読んで利用してもらいましょう、そのためにいろんなことを催していきましょとやっているところもあります。果たして、それでたくさん来ていただいているのかはわかりませんが、そういうこともやったり、あるいは、こどもの読書週間や国の読書週間に合わせて、古本市をやったり、あるいは年間ベストリーダー賞をそこで表彰したりとか、いろんなことをやっているけれども、果たしてそれで図書館に見える人に大きく広がりがあるのかというと、なかなか難しいです。

先ほど、小学生が本を借りて、学校で返せるかという意見がありましたが、返すことができればいいけれども、やはり図書館にたくさん足を運んでもらうために、図書館で借りて、図書館で返してもらいたいと。そういうことから、幼稚園の仕掛けは非常におもしろい仕掛けと思いました。

中学校でも学習室があるので、そういう勉強を図書館でという宣伝をしていただいて、定着すれば利活用していただけるようになると思いますし、これまで中学校も小学校も幼稚園もやってきた、ノーテレビ、ノーゲームデーのときには、家族で本を読むようにしましょう、ぜひ図書館に足を運んで図書館で読んでくださいとか、図書館で本を借りてくださいという仕掛けはこれからやっていく必要があるかと思います。

あるいは、みんなが努力義務として第1週は1回図書館へ、この月は、1回は図書館へ足を運ぶ月間にしようとか、強制はできませんがそんなことをやっていかないと難しいと思います。なぜかという、今は2万冊だからです。5年後には3万冊になるのですが、本の種類や魅力ある本という、近隣の市町に比べるとやはり質が落ちるのです。でも、おらがまちの図書館ですので、それでも3万冊ありますから、読みたい本はたくさんあると思います。なので、みんなでこぞって今日は図書館へ、今週は1回足を運ぶように行こうとか、あるいは、区長会が年何回かある中で、例えばこの地区は、今週これだけ足を運んで、これだけ利用していただいたと、読んでいただいた本の数を把握していくという、それもちょっとよいかと思って。

何とか来ていただくような工夫をやっていこうと思うと、強いて今やれるのは、町民の展示コーナーでおもしろい展示や企画をし、そこで準備をしてもらいながら図書館へ足を

運んでもらうと考えています。これを今日のテーマの中で、もっといろいろないいアイデアが出てくるとありがたいなという思いで実は参加させていただいておりましたが、本当にこれからの課題かなと思っております。

【白木教育委員】 子供向けや親子向けにいろんな企画、イベントをやっていただくに当たって、ただ来てくださいでは来てもらえないと思うのです。今月はこんな企画、できれば毎月企画をやって、多くの町民の方に利用してもらうためには、スタッフが絶対必要だと思います。ほんとうに立派な図書館ができて、運営等がうまくいかないということでは困るので、人が利用しないのにスタッフが多くても、また問題ですが、ハードばかり立派でもソフトが貧弱だと絶対長続きしないと思いますので、ぜひスタッフを置いて、充実させていただきたいなと思ってます。

【加藤町長】 ほかに、どうでしょうか。

【藤井教育委員】 私の中学校のときの経験ですが、英語の先生が、英語の本、こういう本を読んで感想文を書くという夏休みの宿題がありました。それがまた非常に難しい本で、中学1年生が英語で書いてある本を読んで、感想を書きなさいと言われたのです。

また、その本が哲学的な本で、どこの本屋に行ってもなくて非常に困ったという経験をずっと持っていました。なので、図書館にある本を5冊なら5冊、10冊なら10冊本を先生が選んで、この本の感想文を書きなさいというようなテーマで宿題として出していたら図書館に足が向くのかなと思いますが、そのような取り組みは難しいでしょうか。

【加藤町長】 1つの提案、ヒントとして。

【藤井教育委員】 本屋を探さずに図書館の中にある本、そういうテーマでできないかと思いました。

また、西川課長が言われたシール登山は非常にいいかなと思います。シールがたくさんたまったら何かご褒美を出すとか、あまり人が集まらなかったら、そういうことも考えていただければ、子供にとっては楽しみかなという気がします。

【加藤町長】 ありがとうございます。

図書館の活用につきましては、子供たちへの働きかけと同時に、保護者や地域の方々が足を運んでいただけるような工夫がより一層必要であると思っております。保護者や地域の方が図書館のよさや読書の魅力を感じてもらうことで、子供たちへもいい影響が及ぶのではないかと考えております。

この図書館の運営や活用については、当初から教育委員会のほうで取り組みをいただき、

研究や検討を重ねていただいているところでございます。そういった中で、今日のテーマにつながっていきますが、どのような形で保護者や地域の方々へ啓発していくか、あるいは、図書館を活発に活用していくかというような課題、テーマについて、私は、町民の皆さんが幅広く参画をしていただけるような、チャンス、機会、場をつくっていく、私は活性化委員会がまさにそれに当たるのではないかなと。だから、この活性化委員会にどれだけの人たちがかかわっていただけるのか、いろんな思いや、分野や、立場の人たちがここに参画いただき、いろんな企画に取り組んでいただくことがより重要ではないかなと。コンサルなどプロの人たちのアイデアや、指導いただくことも大事かと思いますが、地域の中で事業、図書館の運営の活性化に向けて取り組んでいくには、やはり町民の人たちを、少しでも多くの人たちを巻き込んでいくことが肝要だと思っておりますので、そのあたりをご理解いただいて、教育委員会のほうでも、さらに活性化委員会の輪を広げて参画していただく、そこに子供たちやいろんな人たちを巻き込むことの可能性がそこに広がっていくと私は考えています。

そんなような形の中で、魅力のある図書館づくりを目指していくことがより大切だと、思っておりますので、教育委員会の皆さん方、また学校の先生方、それぞれのお立場から、積極的なかかわりを持っていただけたらと感じているところでございます。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】 今日、この会場に青少年育成町民会議の杉野会長さんにお越しいただいております。町の青少年育成町民会議のほうでは、独自に子供支援の組織を立ち上げる準備をしていただいているということで、ここでその内容の紹介をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【加藤町長】 ありがとうございます。

冒頭で教育長からもございました、子ども未来塾の設立に向けて進めていただいております。今日は、青少年育成町民会議の杉野会長さんにお越しいただいておりますので、ご紹介をお願いしたいと思います。

【杉野青少年育成町民会議会長】 青少年育成町民会議の杉野です。本日は、このような機会をいただきましてありがとうございます。では、木曾岬子ども未来塾について簡単に説明させていただきます。

設立に当たりましては、私と、各学校、幼稚園・保育園の運営協議会の委員長さんの連名で発起人として立ち上げていこうと思っております。現在、木曾岬町教育委員会が進めているコミュニティ・スクールの趣旨を受けて、地域の皆さんと幼稚園・保育園、小学校、

中学校、教育を支援していきたいと思っております。

まず、この未来塾の活動の狙いとしましては、メインは中学生の数学と英語の基礎の安定、学力向上の支援をしていきたいと思っております。木曾岬におきましては、中学校で出される宿題のプリントをいただき、宿題の支援していくこととなっています。英語につきましては、卒業までに英検の5級から3級を受験する学力をテキストを用いてつけていくように支援していきたいと思っております。また、保育園、幼稚園、小学校には体験活動の場をつくる支援をしていきます。

このような支援をするために、運営委員10名ほど、学習指導ボランティア、体験活動支援ボランティアの募集を広報7月号でさせていただきたいと思っておりますので、町内の皆さんに周知をお願いしたいと思っております。また、詳しい運営につきましては、今後、運営委員会を設立し決めていきたいと思っておりますので、皆様のご賛同、ご協力をお願いいたします。

【加藤町長】 ありがとうございます。

私は、教育委員会や教育長から具体的な取り組みについてはいろいろとお聞きしておりますが、この子ども未来塾に私も非常に期待させていただいております。学力の向上や英語教育の充実に十分に寄与するといった取り組みであると同時に、木曾岬の全ての子供たちに光を当てていくというコンセプト、これはまさに当町が目指す人づくり、地域人材育成につながってくるものだとい大いに期待いたしておりますので、ぜひ杉野さんを中心に、運営委員の皆さん方、ボランティア、大勢の方のかかわりを持っていただき、木曾岬の子供たちが自慢できるような、実感できるような取り組みをお願いします。

また、この取り組みが図書、本を読むことと重ねていくのかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

【杉野青少年育成町民会議会長】 1つ言い忘れましたが、この事業といたしましても、図書館を利用させていただきます。

【加藤町長】 私は本を読むことが全てそこに通じると思っておりますので、新しい図書館もできますし、図書数も2万、3万で、もう一つという見方もあるかもしれませんが、まだ足りないのだと、どんどん買ってくれと言われるくらいの方が上がってくることを期待しておりますので、よろしくをお願いいたします。

本日の総合教育会議では、地域とともにある学校づくりに向けて、地域の力を活用することや、またコミュニティ・スクールによる地域づくりの可能性について、深く議論、意

見交換、ご協議をいただき、今後の教育施策に向けた貴重なご意見をいただくことができました。ほんとうにありがとうございました。非常に実のあるご意見をいただき、ほんとうにありがとうございました。

一通り議題を上げて意見交換をさせていただきましたが、最後に、今日の総合会議、議題になったことについて、感想やご意見等がございましたら、ご発言いただきたいと思います。

【白木教育委員】 子ども未来塾の立ち上げについて、教育委員会でも教育長より少し説明をいただいた経緯もありますが、学力の対象、支援する人の対象は、少ずつまづいていく人を対象にするということですか。

【杉野青少年育成町民会議会長】 来ている子がみんな学力の低い子になってしまうから、あまり学力のことは強く言いたくないのですが、みんなが率先して、参加いただければと考えています。

【白木教育委員】 最初の話ではつまづいた人を集めるということだったので、そういう意図であればいいと思います。

【杉野青少年育成町民会議会長】 思いとしてはそうですが、それは表には出せないです。

【白木教育委員】 それをどうやって集めるのか、その辺がちょっと問題だと。

【杉野青少年育成町民会議会長】 来ていただければほんとうにうれしく思っていますが、それが一番の問題だろうと思います。

【白木教育委員】 わかりました。

【山北教育長】 校長先生も見えますので、参加するような呼びかけをご協力していただくと思います。

【加藤町長】 よろしいでしょうか。

【藤井教育委員】 私も教育委員となって、10年くらいですが、最初は生徒だけのものが、年を重ねるごとによって、学校も一緒となり、点が線になり、そして、地域という面となり受け皿にしていこうという、町内全部で学校というものを考えていこうとなってきたなど。ものすごくすばらしいし、皆さんの努力がここに実ってきたと今感じております。ほんとうにこれがもっと進んでいくようにやっていただければ、ありがたいと思います。

【加藤町長】 そこが小さいまちのよさでもあり、強みでもある。まちが、やろうと思

うと、イベントや祭りもそうですが、皆さんが自由に参画して、しかも、主体的に実行委員になっていただいたりしているでしょう。ところが、合併して大きいまちになると、市だけでも小中学校がたくさんあり、学校運営に大変苦勞している。相対的に、木曾岬町の場合はそういった意味で、皆さんの気持ちを1つにして取り組んでいくことができるし、投げかけたこと、一石を投じたことの効果、成果が、ほんとうに早くあらわれてきますので、やりがいもあると思います。また、その主役である子供たちは、ある意味幸せではないかと思っております。

今日、長時間にわたっていろんなご意見を頂戴いたしました。ぜひ今後とも、当町の教育振興と次世代を担う子供たちのために、皆さん方の一層のご尽力をお願いしたいと思いますし、町としてもそれにしっかりと取り組ませていただきたいと思います。ほんとうに今日は長時間にわたってご審議をいただきありがとうございました。

【政務統括監兼総務政策課長（森）】　たくさんのご意見をありがとうございました。この委員会でございますが、次回の開催については今のところ予定はございませんが、協議する内容が発生したときには随時会議を開催させていただきますので、その折には、ご参集のほどお願い申し上げます。

次に、その他の事項に移りますが、教育委員会事務局で何かございますか。よろしいですか。

では、特にないようですので、これをもちまして平成29年度第1回の木曾岬町総合教育会議を終了させていただきます。長時間にわたりまして、慎重なご審議をどうもありがとうございました。

午前11時38分閉会